産業教育（専門教科）の授業アイデア・高校

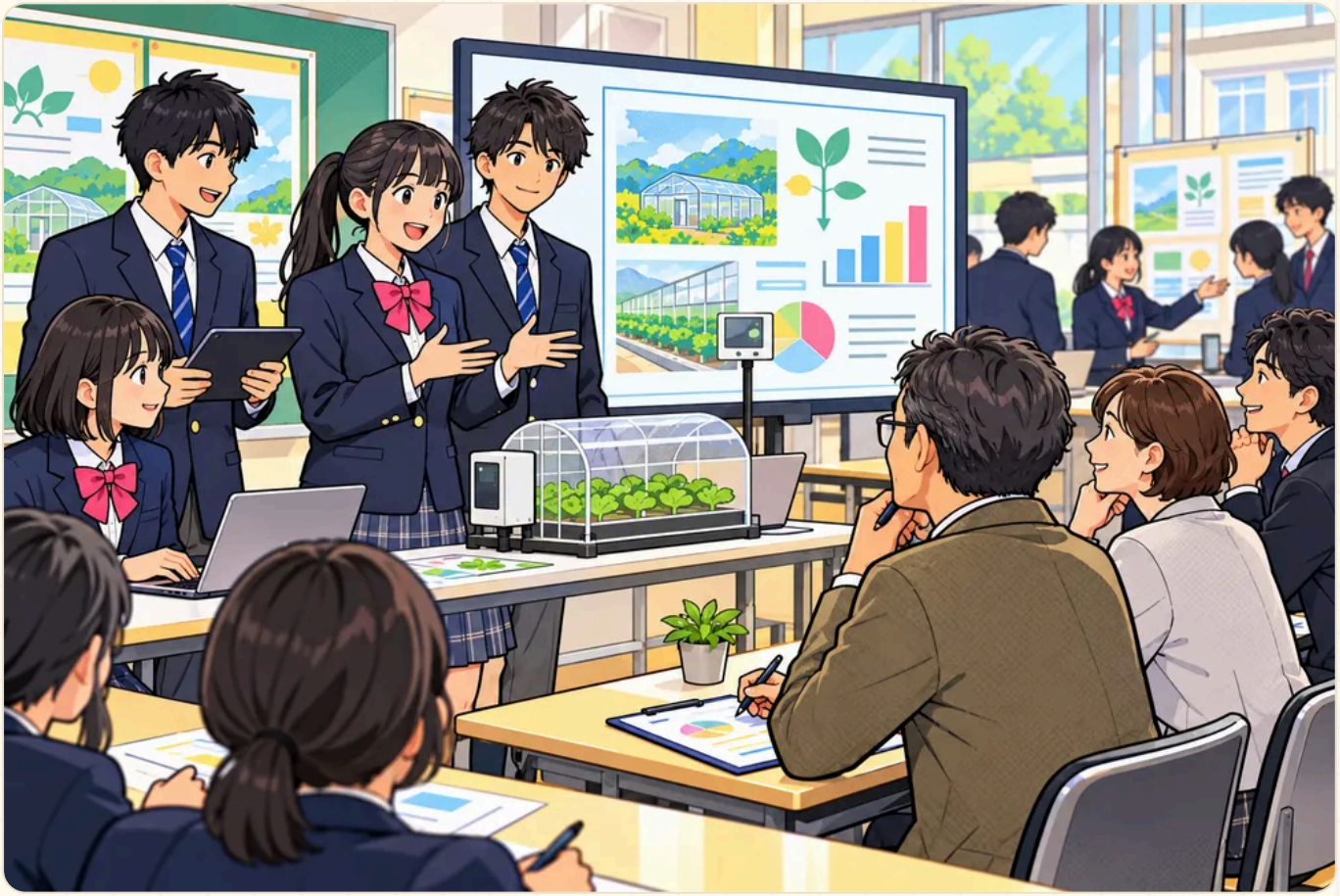
外部の専門家と評価規準を共有する発表会

評価規準を事前に共有し、専門家の意見を評価材料の一つとして生かします

高校3年（課題研究）　1単位時間（50分）

プレゼンテーション・根拠をもって説明する・助言を生かす

次期学習指導要領とのつながり



パフォーマンス課題　外部人材からの評価材料　持続的な連携

審議まとめは、専門高校ではペーパーテストにとどまらず、論述やレポート、発表、話し合い、作品の製作などのパフォーマンス課題を用いた評価を取り入れることが重要としています。また、外部人材による指導が増えることから、産業界などの外部人材からの評価材料を積極的に加味すべきとし、その際は教科の担当教員が最終的な責任をもつことを大前提に、評価規準などについて事前に共通理解を図ることが

重要としています。産業界との連携は単発にとどまらず、計画から実施、評価まで一貫した持続的な関係が重要とされています。この発表会は、その評価の部分を外部の専門家と一緒に行う形です。 P287 P298 P299

ねらい

課題研究の中間成果を外部の専門家に説明し、評価規準に沿った助言を受けて、今後の改善点を明確にする。

準備するもの

- 評価規準表（3〜4項目程度。事前に連携先と共有し、言葉の意味をすり合わせておく）
- 専門家用コメント用紙（評価規準ごとに「よい点」「改善点」を書く欄）
- 生徒の中間成果（試作品、データ、レポートの下書きなど）

手順

1. **評価規準表を生徒と専門家の両方に示し、今日見てもらう点を確認します。** 5分

2. **班ごとに発表5分・質疑5分を3班分行います。専門家は評価規準に沿ってコメント用紙に記入し、教員は質疑の様子を記録します。** 30分

3. **班ごとに専門家のコメントを読み、改善点を3つにしぼって今後の計画に書き込みます。** 10分

4. **専門家から全体への講評を受け、教員が今後の流れを確認します。** 5分

© 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）｜授業アイデア：外部の専門家と評価規準を共有する発表会｜研修・校内での印刷・配布OK（連絡不要）

評価（見取り）のポイント

専門家のコメントは評価材料の一つとして加味し、最終的な評価は担当教員が評価規準に照らして行います。質疑で生徒が自分の言葉で根拠を説明できたか、作成過程の記録が残っているかもあわせて見ます。

AIを使うなら

レポートや資料づくりでAIを使った班には、どの部分でAIを使ったかを記録させ、質疑で自分の考えを説明できるかを確かめます。作成過程の確認や口頭での説明と組み合わせることで、生徒自身が考えたかを見取ります。

うまくいくコツ・アレンジ

- 評価規準は専門用語をかみくだき、専門家と教員で「十分満足できる姿」の例を1つずつすり合わせておきます。
- 専門家には点数ではなく、規準に沿った具体的なコメントをお願いすると、生徒の改善につながりやすくなります。
- 同じ専門家に計画・中間・最終と続けて関わってもらうと、単発ではない連携になります。

アレンジ

- 遠方の専門家にはオンラインで参加してもらい、コメント用紙はデジタルで回収します。
- 最終発表会では地域の人にも聞いてもらい、提案の実現可能性について意見をもらいます。

ほかのアイデア

地域産業の課題をデータで見つける　AIで傾向をつかみ、要因は自分で考える

※ 次期学習指導要領は告示前です。審議まとめ（2026年10月5日）の方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルのアイデアです。